

JICA留学生のインターンシップ

独立行政法人 国際協力機構

国内事業部 大学連携課

2023年3月

JICA留学生受入概要

開発途上国の未来と発展を支えるリーダーとなる人材を日本に招き、欧米とは異なる日本の近代の開発経験と、戦後の援助実施国としての知見の両面を学ぶ機会を提供しています。

<受入概要>

- 毎年約1,000名程度
- 本邦大学院の修士、博士の学位課程に就学
- 主に政府や公共団体の関係者、一部民間人も対象
- 一部の留学コースで、日本企業等でのインターンシップを実施

● スキーム別受入人数

スキーム	人数
技術協力※	623
無償資金協力(JDS)	381
有償資金協力	52
合計	1,056

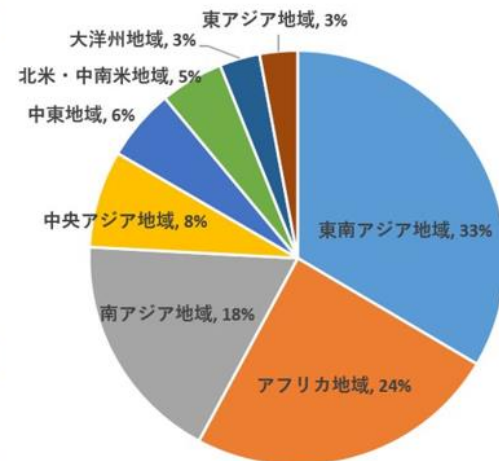
※技術協力には有償勸定技術支援を含む。

※留学生のうち、大学院入学者のみ計上。

● 学位別受入人数

スキーム	人数
修士	821
博士	235
合計	1,056

● 地域別受入人数



インターンシップ概要

(1) 目的

- 途上国の産業の発展に資する日本企業とのネットワークを構築
- 日本企業の海外展開においてJICA留学生が水先案内人として活躍
- インターンシップを通じて高度外国人材としての採用検討

(2) 時期及び平均期間

- ①夏期/春期休暇中：約1～2週間
- ②学位課程修了後：約3カ月（最長6カ月まで可能）

(3) 主な対象留学コース

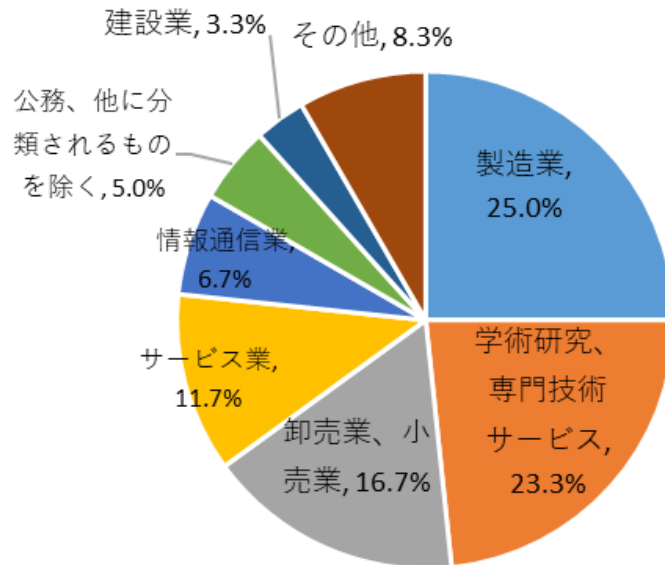
- ABEイニシアティブ
- イノベータータイプ・アジア
- SDGsグローバルリーダーコース（※夏期/春期休暇中のみ）
- シリア平和への架け橋・人材育成プログラム
- アフガニスタン未来への架け橋・中核人材育成プロジェクト

インターン受入企業の業種

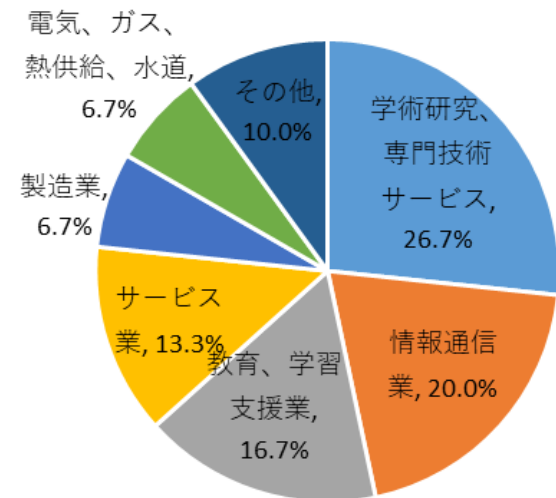
夏期/春期休暇中

学位課程修了後(※)

2021年度夏期受入企業（60社）業種



2021年度修了時受入企業（30社）業種



※学位課程修了後は、受入先企業からオファーいただいた場合のみ実施

インターンシップ受入までのスケジュール

◆ 受入4～5カ月前

- ご意向の確認・登録フォームへのご入力（随時受付）

<https://forms.office.com/r/73E0TJ9BEu>

- ご入力後、委託先の一般財団法人日本国際協力センター（JICE）より今後の流れ等についてご連絡いたします。

◆ 受入3～4カ月前

- 夏期/春期/学位課程修了後のインターンシップ実施について、JICEよりご案内の上、受入をご希望される場合は「インターンシップ受入申込書」（実施時期、主な実施内容等）の提出を依頼いたします。
- 「インターンシップ受入申込書」に基づき、対象留学生とのマッチング実施、マッチング成立次第受入が確定します。

◆ 受入1～2カ月前

- 具体的なインターンシップ日程表及びJICA留学生の個人情報取り扱いに関する同意書をご提出いただきます。

インターンシップにかかる経費

◆ JICA負担

- (1) 生活費
- (2) 宿泊費
- (3) 交通費
- (4) インターンシップ保険料

◆ 受入先ご負担

実施に係る諸経費（人件費、備品等）

【ご参考】

ABEイニシアティブのインター ンシップ概要及び優良事例

【事業概要】

事業名：ABEイニシアティブ

(アフリカの若者のための産業人材育成イニシアティブ：African Business Education Initiative for Youth)

対象国：アフリカ54カ国

- 目的：アフリカ成長の鍵となる産業人材の育成、日本企業のアフリカビジネス「水先案内人」の育成とネットワークの構築
- 専攻分野：**工学**、**経済・経営**、**農学**、**ICT**、政治・公共政策、理学、医療・保健
- 取得学位：修士号
- 受入人数：年間約100名

【インターンシップ実施】

- 目的
 - ①アフリカ産業人材であるABE生と日本企業との人脈形成
 - ②日本企業への就職も期待
- 実施時期及び期間：
 - ①主に夏季休暇中、1週間以上
 - ②学位課程修了後、最長6ヵ月（企業よりオファーがあった場合のみ）

国名	ABE生の帰国後の成果事例
ケニア	<ul style="list-style-type: none"> ◆ ケニアに進出している日本企業の更なる事業展開にITエンジニアとして貢献 ◆ 日本企業とのパートナーシップで、小学生へのプログラミング教育を提供
タンザニア	<ul style="list-style-type: none"> ◆ タンザニアの水分野において日本の高い技術や製品の活用を促進
モロッコ	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 日本の水技術でモロッコの水不足・排水処理の課題解決に貢献
セネガル	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 日本の灌漑整備を地方の小規模農家へ技術移転
ガーナ	<ul style="list-style-type: none"> ◆ ガーナ版Suicaのビジネスで母国の課題解決に貢献



ガーナ版Suicaのビジネスで母国の課題解決を目指します

- **2018年にABEイニシアティブに参加したダニエル氏は、交通ICカードのシステムからヒントを得て非接触の決済サービスのビジネスを立ち上げました。**
- ◆ ガーナ大学に勤務するダニエル氏は、2018年、ABEイニシアティブに参加。来日直後に交通ICカードSuicaのシステムに感銘し、滞日中に出会った人たちとのネットワークを活用して非接触決済サービスの会社を起業しました。
- ◆ このガーナ版Suicaでは、現金払いによる支払いの煩雑さや顧客たちの長蛇の列、また釣銭の盗難などの課題の解決や、新型コロナウイルスの感染下においては非接触決済サービスとしても高いニーズが期待されます。
- ◆ 2021年帰国したダニエル氏は、サービス提供先のニーズを調査するとともに、ICカードの調達準備が整い次第、本格的なサービス提供を始動する予定です。

Mr. Daniel Elliot KWANTWI	
バッチ	第5バッチ(2018年9月～2021年3月)
出身国	ガーナ共和国
大学	東京大学大学院農学生命科学研究科
インターン先	なし
応募時所属先	University of Ghana(教育)
現在所属先	TranSoniCa Company Ltd.. (起業)



ダニエル氏



TranSoniCaカード

国際協力機構



日本企業の現地パートナーとして ケニアでの事業展開を支援



- **ABEイニシアティブ参加後、ケニアで起業したマイタイ氏は、日本企業の現地パートナーとして、同国でのeラーニングツールの事業展開に貢献しています。**
- ◆ ケニアの民間企業で勤務していたマイタイ氏は、2014年にABEイニシアティブに参加。宮崎大学で工学を学び、教育情報サービス(KJS)社でインターンを実施しました。インターンの最終報告会では、KJS社のeラーニングツール「ThinkBoard」をケニアで普及する事業計画案を発表。これが同社社長の目にとまり、両者は連携について合意しました。
- ◆ 帰国後、マイタイ氏は起業。KJS社の現地パートナーとして、ケニアでの「ThinkBoard」の普及に向けて、教育機関に対して同製品の仕組みや操作方法を説明し、営業活動を行っています。
- ◆ 2021年現在もKJS社との事業を拡充しているほか、ABEイニシアティブで築いた人脈を活かしてエネルギー分野や開発コンサルタント分野の日本企業と連携し、更なる現地パートナーとして意欲を見せています。

Mr. Christopher Maitai	
バッチ	第1バッチ(2014年9月～2016年9月)
出身国	ケニア
大学	宮崎大学工学研究科
インターン先	株式会社教育情報サービス
応募時所属先	Syrecon services Ltd (民間)
現在所属先	Aviva Technologies Ltd. (民間)



マイタイ氏